

筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2019年 ～～ 秋号 ～～ 第44号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8 滝沢方

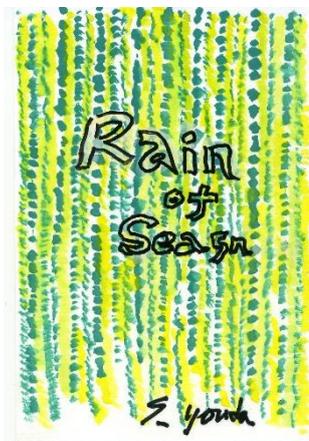
TEL 080-5901-9979

H.P <http://nosonshoibaraki.sunnyday.jp/>



《 44号内容一覧 》

はじめに（細川副会長）	1
役員会から	2
研修会報告	3
高次脳機能障害支援センターから	4
高次脳機能障害支援協力病院（モデル事業）紹介	6
神栖の広場	7
県南の広場（コラージュ）	8
県北の広場	10
がんばってる人⑨「小川 伸一さん」	12
施設訪問⑩「きずな PLUS」	13
「お母さんのこと忘れてたらごめんね」について	14
賛助会員の方々	17
おしらせ・編集後記	18



表紙の絵手紙は、県北集会の皆さん（当事者、ご家族、支援者の方々）の作品です。それぞれの思いが込められた、素敵な作品ばかりです。

当日は当事者の方の参加が少なく、用田貞夫さんおひとりでした。左の作品は用田さんの作品です。繊細なタッチで描かれた雨が季節を感じさせます。

はじめに

私は囲碁を少々たしなんでいます。5月に第一回高次脳フォーラムが大船渡で開催されるのを知り興味があったので参加してきました。第一部が柴本礼先生の基調講演、第二部がパネルディスカッション、それに高次脳機能障害者と失語症者による囲碁大会となっていました。



どうせ行くならと当事者である息子を誘ってみました。意外に「行ってもいいが囲碁は出来ないが大丈夫？」との返事でした。これ幸いとばかり、「囲碁初めての人でも参加大歓迎となっているから大丈夫、大丈夫」と言い、お父さんがそれまでに囲碁を教えてやるからと参加を促した。息子は時間の観念障害、記憶障害、感情障害等があるため車でいった方が無難なので息子にそのことを告げた。そうすると息子の考えではお父さんは高齢者なので遠出の運転は避けた方が良いと言い公共交通機関を利用しようとなった。案の定、時間はぎりぎりでもヤキモキし、怒鳴り合うはで高次脳機能障害の症状との闘いで大変な二日間でした。しかし、そうは言ってもまた一つ良いコミュニケーションは取れたかなあとは感じました。高次脳フォーラムは大盛況で立ち見は出るは、囲碁セットが不足する等実行委員の方は大変そうでした。柴本先生の基調講演は囲碁によるリハビリ効果と認知症のお母さんと当事者である旦那さんとの対局の様子が、面白く語られ非常に参考になりました。パネルディスカッションも浅野史郎さんの名司会で掛け合い漫才のようで楽しく、時間が足りないくらいでした。高次脳機能障害者と失語症者による囲碁大会は最初にプロ棋士王銘琬九段による囲碁を簡単にした10分で出来る純碁をレクチャーされ実戦に入った（なお詳しい内容は純碁で検索してみてください）。息子も対戦相手が決まり、対戦を通じて、ルールも何となく覚え、勝ったり負けたりしながら大いに楽しみ、気に入ったようである。いろいろあったが息子を誘ってよかったと思った。また、息子は一つ新しく出来ることが増えた。私も息子と囲碁（純碁）と一緒に楽しむ機会が増えたことは喜ばしいことだと感じています。障害者は文化面、芸術面、芸能面、スポーツ等、あらゆる分野にと挑戦し、物にしていっている。難病の障害者が国会議員にも進出するにいたって、国会に送りこんだ支援者も大したものである。そのために、国会あるいは国が対応せずにはいられなくなったのである。この様なやり方もあるのだなと感服する次第である。

高次脳機能障害者の会も当事者に広く情報を提供したりして、当事者の望むことやりたいことを察してあげて、実現への環境を整えてあげることが必要である。そのためには私たちの身近な行動の中で起きた小さな問題を声を大にして解決されるまで市町村ならびに県なり国なりに訴え続ける必要があると思う。会員の皆さんどんなことでもいいです、意見をどしどし出して下さい。それに行事にも時間の許す限り、顔を出して下さい。活発な活動実績が市町村並びに県や国を動かす大元です。諦めません、止められません、当事者にとってより良い社会になるまで・・・。

副会長 細川 善満

役員会から



令和元年度 高次脳機能障害友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
9月	13日 家族会交流室 15日 県南集会 25日 神栖集会 26日 県北家族の集い		8日 市民公開講座（失語症） 15日 会報誌発行 16日 茨城県リハビリ講習会
10月	6日 県北集会 11日 家族会交流室 23日 神栖集会	16日 役員会	（未定）県への要望書提出 // 福祉課担当部長訪問 20日 バス旅行
11月	8日 家族会交流室 21日 県北家族の集い 27日 神栖集会		18日～19日 高次脳機能障害の講座 （支援センター） 24日 茨城県リハビリ講習会
12月	13日 家族会交流室 22日 県北集会 25日 神栖集会	18日 役員会	15日 会報誌発行

役員会報告

- 令和元年 6月20日 議事 (1) 総会を終えて
(2) 家族会名称変更の作業手順の確認
(3) 作業療法士会土浦医療圏の事業について
- 令和元年 8月17日 議事 (1) 名称変更について
(2) 神栖集会・交流室等の報告
(3) 広報誌（44号）について
(4) 要望書について

家族会交流室からの報告

- 令和元年 6月14日 相談者1組 会員6名
記念病院⇒金森さん、山倉さん
支援センター⇒小原課長
- 令和元年 7月12日 相談者2組 会員8名
支援センター⇒山中相談員
- 令和元年 8月 9日 相談者1組 会員10名
支援センター⇒小原課長、青山相談員



研修会報告

《《 令和元年度 第1回高次脳機能障害者支援従事者研修会 》》

令和元年7月23日(火) 江戸崎公民館



古田総合法律事務所、弁護士 古田兼裕先生による講演会があり「交通事故後の手続きの流れと関連制度について」というテーマで話されました。

交通事故で家族が突然に高次脳機能障害者となった場合、使える制度を調べることや、法律上の手続きをしなければならないなどの手間は、看病しながらの家族にとっては大きな負担です。特に重傷だった場合は費用の面でも負担となり、自動車事故対策機構(ナ斯巴)の利用など専門的な知識を得ることが、その後のリハビリや生活に大きくかかわってくるということでした。相談支援が早い段階から必要で、それにはMSW(医療ソーシャルワーカー)による支援が必要です。地域の相談支援事業所、もしくは今回説明のあった「交通事故被害者ネットワーク」などの相談機関を紹介することが、本人や家族の救済に繋がると思います。医療と相談支援の連携を是非、お願いしたいと思いました。

《《 第1回 茨城県高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会 》》

令和元年8月6日(火) 茨城県医療大学

この日、茨城県においての高次脳機能障害者支援の施策を協議する、委員会が開催されました。

県内支援協力病院が指定されたことや、筑波記念病院と志村大宮病院の県モデル事業についての報告もあり、このことは会報43、44号にかけてご紹介していますので、そちらもどうぞご覧ください。

今年度の事業計画としては、支援ネットワーク構築のための情報交換会が、5地区に分けて開催されるということです。各地域の支援機関や施設などが集まり、情報を得るための連絡会を開催し、その情報を使い当事者や家族、支援者に役立つ支援マップを作成するそうです。紙面での情報は、刷新がないと時間の経過で活用しづらくなるのが問題で、県ホームページでも掲載しては、という意見がありました。

その他、自動車運転支援に関するミーティングが行われたなど、新しい取り組みの報告もありました。相談支援の報告としては、相談件数は昨年度より増えており、特に40~50代の男性の件数が増えているそうです。家族会交流室でも、働き盛りの方が脳卒中で、という相談が増えたように感じていました。在職中に受障した人にとって、退院後に仕事に就けるか否かは切実な問題になってきます。円滑に職場復帰ができるような施策、そして企業側の障がい理解が更に進むことを願っています。

《《 令和元年度 第一回高次脳機能障害医療従事者研修会に参加して 》》

令和元年8月27日(火) 筑波記念病院

参加者は、約70名、職種も十六種にも及び、休憩時間にも講師の先生の所に相談や質問に集まるほど皆さん熱心な方たちばかりで驚きました。こんなにたくさんの人たちが高次脳機能障害について研修に来て下さったのかと思うと心強い気持ちでした。

センター長の小原先生の挨拶ののち、筑波記念病院リハビリテーション科の安岡利一先生から高次脳機能障害の専門的な知識について資料を基に講義があり、次に、筑波記念病院リハビリテーション部の金森毅繁先生から、筑波記念病院のモデル病院としての取り組みについて説明がありました。その後実際に行われている高次脳機能障害者のリハビリについて、事例を挙げてリハビリテーション部の方から説明がありました。

今回は、医療従事者が対象でしたが、家族として改めて学ぶことも多く、高次脳機能障害に関わって下さっている方たちに感謝するとともに、大変有意義な研修の機会となりました。

高次脳機能障害支援センターから



高次脳機能障害者支援につきまして、27 医療機関のご協力を頂けることになりました！

高次脳機能障害支援センターは、昨年度より県内の医療機関へ訪問し、高次脳機能障害についてのご理解と協力を頂けるように活動してまいりました。院長、当該科の医師、関係職種へ高次脳機能障害についての説明を行い、医療機関の申請をもとに、高次脳機能障害支援協力病院として指定いたしました。

高次脳機能障害支援協力病院として、診断等に関する協力をいただくほか、高次脳機能障害支援センターが主催する会議や研修会への参加、高次脳機能障害支援協力病院モデル事業を受託する医療機関との連携を依頼しております。

受診を希望される場合は、協力病院へお問い合わせを行い、既に受診している医療機関からの紹介状または診療情報提供書をご持参のうえ、受診手続きをする流れとなっております。医療機関ごとに、診療体制や提供できるサービスの内容が異なるため、ご希望に添えないことがございます。その際には、協力病院と茨城県高次脳機能障害支援センターが連携して対応する運びとなっております。

今後も医療機関に対しては高次脳機能障害へのご理解とご協力を頂けるように継続して活動し、出来るだけ多くの医療従事者の支援を頂けるよう努めていきたいと思っております。

何かご不明な点等ありましたら、高次脳機能障害支援センター 浅野までご連絡ください。



茨城県 高次脳機能障害支援協力病院 一覧



地域	医療機関名	電話番号	診療科	問い合わせ先
水戸	医療法人 碧水会 汐ヶ崎病院	029-269-2226	神経内科 精神科	医療福祉支援室
	医療法人 北水会 北水会記念病院	029-303-3003	脳神経外科 リハ科	リハビリテーション科 担当 木城・舟木
	県立こども病院	029-254-1151	小児脳神経外科 小児神経心療内科	成育在宅支援室 ソーシャルワーカー
	県立中央病院	0296-77-1121	脳神経外科、リハ科 神経内科、精神科	医療相談支援室
	県立 こころの医療センター	0296-77-1359	精神科	新患予約番号にて対応 福祉連携サービス部にて調整
	医療法人社団 聖嶺会 立川記念病院	0296-77-7211	リハ科	リハビリテーション部 担当 國谷

地 域	医 療 機 関 名	電 話 番 号	診 療 科	問 い 合 わ せ 先
日立	医療法人 愛正会 やすらぎの丘温泉病院	0293-24-1212	リハ科	リハビリテーション科
	日立製作所 日立総合病院	0294-23-1111	脳神経外科 神経内科	社会福祉相談室
常陸太田 ひたちなか	医療法人 博仁会 志村大宮病院 ★モデル事業病院	0295-53-1111	リハ科 神経内科	志村大宮病院高次脳機能障害相談窓口（地域医療連携センター内）
	日立製作所 ひたちなか総合病院	029-354-5111	リハ科	リハビリテーション科
鹿行	医療法人社団 善仁会 小山記念病院	0299-85-1111	脳神経外科	メディカルソーシャルワーカー
	社会福祉法人 白十字会 白十字総合病院	0299-92-3311	脳神経外科	地域連携室
土浦	総合病院 土浦協同病院	029-830-3711	脳神経外科、リハ科 神経内科、小児科	医事課地域医療連携室
	医療法人財団 県南病院	029-841-1148	脳神経外科	ICT課 担当 川上
	土浦厚生病院	029-821-2200	精神科	医療相談室
	医療法人 青洲会 神立病院	029-831-9702	神経内科	地域医療連携室
つくば	医療法人社団 筑波記念会 筑波記念病院 ★モデル事業病院	029-864-1212	リハ科	医療相談室
	筑波メディカルセンター病院	029-851-3511	脳神経外科 脳神経内科	代表番号にて対応
	医療法人 健佑会 いちほら病院	029-877-0170	神経内科	医療福祉連携室
	医療法人 仁愛会 水海道厚生病院	0297-27-0721	精神科	医療福祉相談室
取手 龍ヶ崎	県立医療大学付属病院	029-888-9200	精神科 小児科	精神科デイケア 担当 高橋 受付時間15時～17時
	JAとりで総合医療センター	0297-74-5551	脳神経外科、リハ科 神経内科、小児科	医療福祉相談室
	社会福祉法人 恩賜財団 済生会 龍ヶ崎済生会病院	0297-63-7111	神経内科	メディカルソーシャルワーカー
	医療法人 三星会 茨城リハビリテーション病院	0297-48-6111	脳神経外科 神経内科、リハ科	総合相談センター
筑西下妻	医療法人 恒貴会 協和中央病院	0296-57-7230	脳神経外科 リハ科	医療福祉支援相談室
	医療法人社団 同樹会 結城病院	0296-33-4161	脳神経外科、リハ科 神経内科、小児科	医療事務課
古河坂東	特定医療法人 仁寿会 総和中央病院	0280-92-7055	リハ科	リハビリテーション科

高次脳機能障害支援協力病院（モデル事業）紹介

前号の43号では、「志村大宮病院」の紹介をしました。今号では、「筑波記念病院」を紹介します。お話は、リハビリテーション部の部長をされている、理学療法士の金森毅繁さんにお聞きしました。金森さんは、患者に対しての支援が円滑に進むよう、チームの先頭に立ち、コーディネーターとして活躍されています。

《筑波記念病院》

住所 〒300-2622 つくば市要 1187-299

電話 029-864-1212



◎入院患者の場合

病気や事故で入院した患者の場合、主治医からリハのオーダーを受けますが、この時点では、高次脳機能障害の有無は、ほとんどが不明です。しかし、定期的に評価をし、目標を設定してプログラムを実施するという作業をしていくうちに、高次脳機能障害も明らかになり、更に新しい目標の設定、プログラムの実施という流れの繰り返しになります。

◎外来患者の場合

当院入院から外来に移行するケースと、他院からの紹介で外来に来られるケースなどが有ります。この場合は、初回の時点で高次脳機能障害が分かっている場合がほとんどです。やはり主治医からリハのオーダーがあると、支援チームとしての評価・介入をしていきます。流れは、入院患者の場合と同様です。

◎支援チームのメンバーと支援体制

<メンバー>

医師・看護師・理学療法士・作業療法士

言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー・事務職等

<支援体制>

◇相談支援

◇当事者の退院後の地域における支援状況の調査

◇高次脳機能障害者の支援が可能な地域資源の
現状調査と開発

◇高次脳機能障害者支援ネットワーク会議の開催等



◎今後の課題としては

◇外来患者においてもソーシャルワーカーが継続して介入し、担当者会議が効率的に開かれるようにしたい。

◇家族や関係各所にも共通理解して頂くために、主治医やリハビリスタッフ等医療側の意見をすり合わせる時間を確保したい。

神栖の広場

強い生命力で甦った命なので、大切に見守っていく覚悟を決めても、初めて聞く訳の分からない障害が残り、惑いの毎日でした。身体が動き出したので、時間とともに回復するものとの思いは甘かったのです。

退院する時、「お母さん、これからが大変ですよ。」との言葉を受け、見送られました。

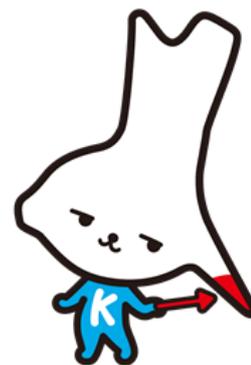
これから予想される行動・対処法等の知識を教えて頂けていたら、当人に対する接し方も違っていたのでは？と、反省することばかりです。私は20年以上経過していますが、最近の家族会の困りごと相談を聞いても、同じような悩みが多いのに驚かされます。当事者が、よりよい生活ができるよう、介護者の心にバランスが保てる支援が大切だと思います。

医療、介護、支援センター、家族会の役割が大きく、私も会員の一人として微力ですが関わっていきたいと思います。

2008年に神栖市で開催された「ふれあいフェスティバル」の写真・使用したビデオテープが出てきました。

「記憶が失われた時」(2008.12.29 NHK 放送 構成 是枝裕和氏) 録画したものを会場の方に見ていただきました。社協を軸に各障害者団体が打ち合わせ・準備等、熱気・活気があったあの頃を懐かしく思い出します。

落ち込んでいる自分に活を入れて、頑張ろうと思います。最近、逆に私の体調を気にかけてくれる優しい息子です。



神栖集会からの報告

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| 6月26日(水) | 支援センター：山中コーディネーター
会員5名 |
| 7月24日(水) | 相談者：1組(母子)
会員3名 |
| 8月28日(水) | 支援センター：小原センター長
青山コーディネーター
会員5名 |

第2回県南集会 「コラージュ教室」

7月14日（日）第2回県南集会（コラージュ教室）が行われました。参加者は、当事者4名、家族6名の10名でした。今回はSTの加藤裕子先生そして同じくSTの藤田純平さんが支援者として参加してくださいました。

指導して下さったのは、毎回お世話になっている笹島京美先生です。今回は先生がお忙しく、少しだけ遅れていらっしゃいましたが、皆さんやり方は心得ていて、集まるとすぐに作業が始まりました。というよりは、このコラージュが楽しみで、早くやりたいという気持ちだったように見えたが、思い思いに雑誌などからはさみで切り取り、紙に貼っていきます。その間おしゃべりも絶えず、支援者の先生たちも一緒に作業しながら話を聞いてくださり、それも癒しになりました。支援者のお二人ともコラージュは初めてということでしたが、出来上がってみると故郷の光景であったり、やさしい花々であったり、それはとてもすてきな作品でした。



その後いつものように先生を囲んで発表です。今回は先生がテーマを出して下さり、自己紹介、最近のわたし、作ってみて、作品について、と4つのテーマで一人ずつ発表をしました。始めは、なかなか言葉が出てこない人もいましたが、いつの間にかいろいろ話せるのが不思議です。また、先生の解説が素晴らしく、気が付くと「親子の作品の共通点」や「作品の素晴らしい点」など褒められると子供のようにうれしく、心の中にあったものが整理されたような気がしました。

支援して下さったお二人の方から、感想が届きましたので掲載いたします。お忙しいところ大変ありがとうございました。

7月14日（日）の県南集会のコラージュ教室に参加しました。以前、皆さんの作品を見せていただいたことはありましたが、参加するのは今回が初めてでした。「自由にやっていいですよ」と言われても何が何だかわからず、初めのうちは「自由ってというのが一番難しいなー」と思っていたのですが、やり始めたらとても楽しくて、好きに自由に何をやってもいいというのが心地よく感じました。笹島先生のお話も大変興味深く、勉強になりました。

今回は支援者としては何もできず、只々個人的に楽しんでしまいました・・・次回はもう少し何かできればと思っています。またどうぞ宜しくお願いします。

東京医科大茨城医療センター 言語聴覚士 加藤 裕子

今回、初めて「コラージュ」というものを体験しました。絵を描いたり、造形したりするのではなく、広告や雑誌を切り抜いて組み合わせて作品を作る「コラージュ」。実際に作業をする中で、自分が選ぶ色や形に、どことなく一貫性があることに気づきました。そして「自分が見ているものは、自分の心の鏡写しなのでは？」という不思議な感覚が押し寄せてきました。

作品が完成したところで、臨床心理士の先生がおっしゃった言葉は「ここからが本番ですよ!」。私はとても驚きました。作品を作るだけでなく、その作品をいかにして「心にしまうか」までがコラージュだったのです。

臨床心理士の先生はひとりひとりの作品を丁寧に解釈し、それぞれの作者の心にしまっていってくださいました。最後の「心にしまう」という活動を通して、私は、自分の知らなかった自分の一面を知り、誰かに言ってほしかった自分の特徴を言ってもらった気がしました。そして心が軽くなったと同時に、自分がとても活気に満ちている感覚を覚えました。

私にとって、今回の「コラージュ」は、今までにない新しい感覚を刺激されたような貴重な体験でした。是非、多くの人にこの体験をしていただけたらと思います。

筑波メディカルセンター病院 言語聴覚士 藤田 純平



令和元年度 第2回県北集会 令和元年6月23日(日)

場所：水戸市福祉ボランティア会館 大研修室
内容：絵手紙 ～季節の野菜や花を心のままに表現しよう～
参加者：17名(当事者1名、家族7名、支援者6名、学生3名)



- 絵手紙のキャッチフレーズは「へたでいい、へたがいい」
- 見たものをハガキに一生懸命に描きました
なす・すいか・ソラマメ・パプリカ
人参・アザミ・にんにく・ジャガイモ・

こんなことに効果的

- ・集中力
- ・認知機能
- ・手先の動き(目と手の協調)
- ・内面の表現



色とりどりの作品ができました

- なにより自由に表現する！！
- なにより楽しい！！



表現力は
ピカイチ★

この集中力は
すごい！！

☆☆楽しい時間を共有できたこと、素敵な作品ができたことに感謝です☆☆
(文責 酒井ゆかり)

2019年度 第3回 県北集会 2019年8月4日(日)

内容 : 脳活レクリエーション

場所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

参加者 : 12名(当事者2名、家族6名、支援者3名、見学者1名)



● 「ナゾトレ」 画用紙に書かれたクイズに答える



● 「花札 神経衰弱」 トランプの代わりに「花札」を使って「神経衰弱」をする



(参加者の感想カードから抜粋)

- ・「花札」のどの札が同じ絵なのか知らなかったが、教えてもらって楽しくできました。
- ・いかに脳がかたくなっているかを思い知らされましたが、楽しかったです。
- ・「ナゾトレ」の答えがわかった時、嬉しかった。
- ・みなさんと声を出しながらいい雰囲気時間が過ごせました。
- ・みなさん良い方ばかりで、初めての人でも話しやすいです。



「トランプ」と「花札」のどちらで神経衰弱をするか迷い、考えた上、「花札」にしました。企画・進行したレクをみなさんが楽しんでくださり、笑顔もたくさん見られて安心しました。当日参加できる支援者が少なくても、みなさんに楽しんでいただくために、しっかりとした準備をしておけばできるんだとあらためて気づきました。(報告：小貴雄太)

神経衰弱をしている時に「子どもの頃に『花札』で遊んだことがある」「昔は家族が集まるとトランプや花札、百人一首などで遊んでいた」…など、懐かしい話題もたくさん出ていました。そんな昔話でも盛り上がる、和やかで楽しい時間になりました。(報告：山本淳子)

◎バリアバリュー精神(障害を価値に変える)

つくば市二の宮 小川 伸一さん

小川さんは17歳の時の器械体操部でのスポーツ事故により高次脳機能障害になりました。私たちには想像できない事ですが、小川さんは30年間くらい自分の障害を誰にも言わずに生活をしてきました。4年前に初めて職場の上司に障害のことを打ち明けました。色々なトラブルがありましたが、現在は障がい者手帳を取得して勤務をしています。



☆家族会や支援センターとの出会いは？

朝日新聞で浅野こずえさんの記事を見つけ、同じ障害を抱えがんばっている人がいることを初めて知り、支援センターや家族会交流会に参加するようになりました。当事者の方に初めて会って話をしたことが、人生の転機になりました。同じ障害の方に会えてよかったと思っています。

☆どんな仕事をしているのですか？

民間の建築確認機関で働いています。住宅の性能(耐震、省エネ等)を図面で審査したり、新築時の補助金を得るための適合書等を発行したりしています。障害のために失敗をして心が折れることもあります。元気に働いています。

☆趣味は何ですか？

旅行と車の運転、洗車。カフェ巡り、眺めのいい場所に行くこと。「沖縄」にはまりました。キャンプ、華やかな服を着る事。Kポップを聞くこと、韓流ドラマを見ること自己啓発本を読んで、自分の生活に取り入れること。ビジネスアイデアを考えること等たくさんあります。

☆夢は何ですか？

高次脳機能障害についての講演、メディアへのアピールなどをしてみたい。30年間障害を抱え、生き抜いてきたことを活かし、同じ障がい者にアドバイスなどの支援もしてみたいです。(障がい者だからこそ気づくことや伝えられることがあると思っています。)

☆最近のことで印象に残っていることは？

当事者だけで話し合いをしていた時に、普段は見せない、本来の自分を垣間見たとき。心が通じ合える仲間だからこそ、本当の自分をみんなが出していたことに感動しました。失語症の方や無口な方が多いですが、心の中は皆ちゃんとしている。素晴らしい考えをもって生きている。記憶障害になり、少し自信がないだけ。皆素晴らしい人格者でした。当事者一人ひとり見ていくと、皆素晴らしい才能を見せてくれて、感動することが多いです。

◎ 小川さんは、友の会の会員になってから、毎回「交流室」に足を運んでくれます。当事者だからこそできるアドバイスがあり、私達役員も大変助けられています。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問⑨

株式会社 フューチャーサポート サポートセンター きずなPLUS

住所 つくば市花畑2-12-2
☎ 029-886-7703



- ◇ 自立訓練（機能訓練・生活訓練）
- ◇ 就労継続支援B型

事業所内外において、就労や生産活動の機会を提供したり、就労に必要な訓練や支援をしています。（定員 14名）又、日常生活に必要な生活能力の訓練や支援、（6名）身体機能の維持や向上のための支援（20名）等を行っています。

生活訓練では月間プログラムを作り、講座や演習を通して、家事や人間関係など社会生活を身につけるための訓練や支援を行います。

具体的なプログラムとしては「衣類管理」「金銭管理」「外出訓練」「コミュニケーション」等です。



サポートセンターきずなPLUS 生活訓練プログラム 月間予定

2019年6月				
月	火	水	木	金
3	4	5	6	7
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)
算数	そうじ・整理 そうじ・整理の大切さを知る	国語	健康な生活とは何かを知る	社会参加
算数	そうじ・整理 そうじ・整理の大切さを知る	国語	健康な生活とは何かを知る	振り返り
10	11	12	13	14
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)
買い物 生活に必要なものを調べる	余暇 大学と図書館に行ってみよう	金銭管理 お金の価値を知る	安全・危機管理 危険なことを知る	社会参加
買い物 生活に必要なものを調べる	余暇 大学と図書館に行ってみよう	金銭管理 お金の価値を知る	安全・危機管理 危険なことを知る	振り返り
17	18	19	20	21
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	食生活	働く(作業活動)
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	読書実習	働く(作業活動)
衣類管理 服装の大切さを知る	食生活 食事の大切さを知る	食生活・買い物 買い物の仕方を知る	働く(作業活動)	社会参加
衣類管理 服装の大切さを知る	食生活 食事の大切さを知る	食生活・買い物 買い物の仕方を知る	働く(作業活動)	振り返り
24	25	26	27	28
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	外出練習	働く(作業活動)
働く(作業活動)	働く(作業活動)	働く(作業活動)	外出練習	働く(作業活動)
コミュニケーション コミュニケーションと人間関係の大切さを知る	外出 外出の計画を立てる	外出 外出の計画を立てる	外出練習	社会参加
コミュニケーション コミュニケーションと人間関係の大切さを知る	外出 外出の計画を立てる	外出 外出の計画を立てる	外出練習	振り返り

機能訓練については現在 14 名の方が登録しています。うち 6 名が高次脳機能障害の方々です。

理学療法士による施術やマシンを利用し、身体機能の維持向上を目指します。通所で行う訓練のほか、訪問による機能訓練も実施しています。

サービス管理責任者の野條さんと理学療法士長の柴田さんにお話を伺いました。高次脳機能障害の方々にはそれぞれの特徴がありますが、今、とても良い人間関係が出来つつあるそうです。地域の利点（交通機関が発達）を活用し、自分たちで計画を立てて目的を達成する外出訓練なども積極的に行っているそうです。社会復帰をしていくにあたっては、個別の課題が出てくると思われるので、それらをどのように支援していくかがこれからの課題とのことでした。明るく清潔感のある室内で、和やかに過ごされている皆さんの表情が印象的でした。

書籍「お母さんのこと忘れてらごめんね」について

(著者：石崎泰子 発行：ブイツーソリューション 発売：星雲社)

当会の会員の石崎泰子さんが上記の本を出版しました。すでにお知らせしておりますので読まれた方も多いと思います。突然の出来事を受け止めきれないまま、意識のない我が子に付き添い医療のこともわからず右往左往する家族の気持ちは、会員の皆様がそれぞれに体験したこととまったく同じではないでしょうか。当事者は夫や子供、または親、兄弟などであったり、発症原因も様々ですが、同じような辛い体験をしています。それを社会的に披露することは体験者皆が出来るという訳ではなく、今回石崎さんが長い時間をかけて執筆、発行してくださったことに、会員として大いに感謝したいと思います。そして、本を書いてほしいとお母さんに提案された美香さんの勇気、そしてそう言わざる得ない退院後の葛藤や苦労が、少しずつ報われることを祈っております。

当事者は、命が助かったその先の人生を高次脳機能障害とともに長い時間を過ごしていきます。大田先生も文中に書かれていらっしゃるが、「社会が少しずつ学んでいける著書」として、当事者が住みやすい社会構築への認知、理解を促進する一助になるものと思います。当会として高次脳機能障害の理解啓発の大事なツールととらえ活用させていただくことになり、様々な関係者にお贈りしました。ありがたいことで多数の方々感想をお寄せくださいました。今回の掲載は、お寄せいただきました方々に大変申し訳ありませんが、紙面の都合上、二氏の方の文をご紹介します。

丹羽 真理子

— — — — 石崎泰子著「お母さんのこと忘れてらごめんね」を読んで — — — —

茨城県立健康プラザ 大田仁史

題を見て、本人の闘病記かと思いましたが、それにしてもICUでの母親の苦労話が多いと思いました。題を「お母さんの苦労を忘れないでね」がよいかと思ったほどです。しかし最後まで読んでこの書が抗 NMDA 受容体脳炎とその後遺症である高次脳機能障害に対する本人、友人、家族、医療者による膨大な啓発書であり臨床報告であることがわかりました。これほどくわしく書かれた啓発書や臨床報告は本邦では初めての本ではないでしょうか。

抗 NMDA 受容体脳炎という病気を私もこの本を読むまで知りませんでした。高次脳機能障害はいろいろの原因で起こり、その症状が多彩であることはリハビリテーション科で仕事をするようになって知っていました。短期記憶障害が強い患者さんの主治医をしたこともあります。その彼は、トイレに行ったまま病棟に帰ってこられませんでした。きっと病棟に帰ろうと動き回り、その目的もわからなくなって病院を出てしまったと思われます。7 キロも離れた JR の駅舎で発見されたのです。自分の今言ったこと、したことが覚えられず、生活が成り立たないのです。メモをとってもメモを見ることを忘れるし、メモの内容の脈絡がわからなくなってしまいます。彼は2階から転落した頭部外傷による高次脳機能障害者でした。少しずつ回復してきましたが、長い間母親がそばにいる必要がありました。

この書の当事者の美香さんは今も高次脳機能障害と闘っています。原因は難しい名前の脳炎です。この病名が確定したのは美香さんが病気になる少し前でしたから治療にあたった神経内科の先生が対策を詳しく知らなくても攻めることはできません。しかし、何十日も意識が戻らないという状態が続いて、神さまの糸に繰られるように専門医にたどり着いたのです。

意識のないわが子と毎日接しているご両親、ことにお仕事もやめ付き添ったお母さんの思いは想像を絶します。実は日記で書かれた導入部分の長さが、この書のもっとも重要な部分であったのです。先が見えない暗黒の中にいる思いを伝えるにはこの部分が欠かせないのです。私も、次の日には改善の兆候が出るか出るかと思いながら読んでいきました。医療のことがわからず気持ちが右往左往する家族の様子、些細な変化に改善を期待したり、「もういい」と娘はあきらめかけているのではないかと疑心暗鬼したりする親心が手にとるようにわかります。そして9か月たって美香さんは奇跡的に眠りから覚めたのでした。

闘病記や看病記を読むたびに私は「人はどこまで優しくなれるのだろう」、「他者のことをどこまで考えられるのだろう」と思います。当たり前のことですが、他人が当人に代わることはできません。しかし親は子に代わってやりたいと思います。柳田邦男氏は「犠牲」という著書の中で、ご息子が脳死状態になり臓器提供を決めるまでの苦しみを著し、家族にとって家族の死は「2人称の死」と書いておられます。医療者にとって患者はどこまでいっても3人称なのです。一方親にとって子は1人称に限りなく近い2人称なのです。人を思うやさしさの遺伝子がオンされるからです。この書からもご家族の、特にお母さんの気持ちはまさにそのような中におられたことが伝わってきます。

本書は、第1章発病、2章ICU入院、3章抗NMDA受容体脳炎、第4章リハビリ、第5章社会復帰、で構成され、あとがきに続いて、主治医の先生と友人の特別寄稿、そして丁寧に疾患解説、トピックスからなっています。

若い女性で、脳炎の症状で意識がなくなった場合、この病気を考えなければならないこと、そして、あきらめることなくきちんとした治療をすれば改善していくことをこの書は教えてくれます。医学の言葉で説明されればおそらく世の中の人々は何の病気のことかわからないでしょう。この書は一般の人が読んで理解できます。また臨床家には病気の症状だけでなく、家族の気持ちを理解するうえで参考になると思います。その意味で啓発書であると同時に、総合的な臨床報告の書でもあるといえます。

私自身はリハビリテーションを中心に仕事をしてきましたので、リハビリの部分は理解しやすいのですが、前段の診断が確定するまでの部分やこの疾患に対する当事者の人たちの社会的な努力に関しては大変勉強になりました。

高次脳機能障害者として美香さんの闘いは、トイシから帰ってこられないほどだった記憶力障害がどこまで改善するか。失敗を繰り返した就業は本当に成功するのか、自動車の運転は心配なくできるようになるのか、お母さんでさえ「障害を甘く見ているのではないか」と思うような本人も気が付かない心の動き、などなどこれからも長く続くと考えられます。高次脳機能障害についてはまだまだ社会的な認知は足りません。このような本によってのみ少しずつ社会も学んでいくのだと思います。

最後に3人称の私ではありますが、お母さんが願っているいい伴侶に恵まれることを祈っています。

大田 仁史 (おおた ひとし) 先生のご紹介

東京医科歯科大学医学部卒、医学博士。現在は茨城県立医療大学名誉教授、茨城県立健康プラザ管理者として活躍しておられます。1996年に日本で初めての医療専門職を養成する茨城県立医療大学の附属病院を立ち上げ、「シルバーリハビリ体操」の考案者でもあります。

日本高次脳機能障害友の会の顧問をしております山口加代子と申します。
当会の前会長である東川悦子さんからご著書を送っていただき、早速拝読いたしました。
まずは、お礼を申し上げたいと思います。

世の中にあまり知られていない抗NMDA受容体脳炎について、高次脳機能障害について、その闘病経過や障害が生じたことによるご本人やご家族に起こったことを詳細にお書きいただいたことで同じ病気にかかれた当事者やご家族が、病気や障害の個人差はあると思いますがその経過についての情報を得られ、見通しを立てることができたり、勇気をいただいたりしたと思います。

高次脳機能障害については、海馬は低酸素や高熱に弱い部位なので、脳炎の後遺症として記憶障害が生じることが少なくありません。高次脳機能障害についての説明や障害に対する対応の仕方について、ご自宅に戻る前にもう少し説明があってもよかったのではと思います。現在の日本において、まだそれが充足されていないことが課題だと思いました。

茨城の家族会の方たちが情報や助言を下さって本当に良かったと思います。でも、石崎さんが当事者会にアクセスされたからその情報を得ることができたと思うのですが、アクセスされていない方たちがまだまだ孤軍奮闘されておられるのだらうと。

リハビリに関わる病院や施設が、お一人お一人の現状と今後の見通し、適切な対応や使える施策（障害者手帳や就労移行支援など）を当事者やご家族のお気持ちも尊重しながらお伝えできるとよいと思いました。

障害を受け止めることはとても難しいことで、ご本人やご家族の方は「大丈夫」と思いたいお気持ちもあることと思います。それも理解しながら、必要な情報を、受け止められそうな時期にお伝えできるような長期的にかかわる仕組みが必要だと思っています。

また、医療機関だけでなく、ハローワークや世間一般に対する啓発活動もまだまだ必要だと再認識いたしました。2年前から日本高次脳機能障害友の会（前日本脳外傷友の会）の顧問をお受けし、日本各地で高次脳機能障害に対する理解と対応についてお話しています。そのような際に、美香さんの「病気のことを話さなければ、私はこんなにできないんだと思われる。本当に私はこんなじゃないのに。認めてもらえないのが悔しい。本当の自分とは何か。前の自分？それとも今の自分？やる気が出ない」という文章を使わせていただけたら幸甚です。

美香さん、お母さまのご了解が得られましたら、講演の際に当事者の心理ということで使わせていただきたいと思います。

高次脳機能障害は年単位で改善されていくと言われていています。改善されるためにも、自分の症状を正確に理解し、それに対する適切な対応（代償手段と環境調整）が必要です。

易疲労もあると思いますので、無理をせず、周囲の理解も得ながら、安心できる環境下で、できることを増やし、自信を回復して行っていただけたらと思います。この本をお書きになるのは決して楽しい作業ではなかったと思います。でも、お書き下さったことで、抗NMDA受容体脳炎と高次脳機能障害について理解者が増えたことと思います。改めてお礼を申し上げます

山口 加代子先生のご紹介

横浜市中央児童相談所に心理判定員として入職。その後、横浜市衛生局保健所 心理相談員を経て、平成 3 年 横浜市総合リハビリテーションセンターに臨床心理士として入職。平成 31 年 3 月 同退職。

現在、中央大学 大学院非常勤講師。日本臨床心理士会 障害・福祉部門研修担当委員。
リハビリテーション心理職会顧問。日本高次脳機能障害友の会顧問。

賛助会員の方々をご紹介します

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| ・那珂市 東隆夫・律子 様 | ・つくば市 飯島 弥生 様 |
| ・笠間市 飯田 房枝 様 | ・常陸太田市 石川 昌子 様 |
| ・潮来市 石毛 安子 様 | ・豊島区 大賀 優 様 |
| ・阿見町 大輪 康子 様 | ・水戸市 小栗美千代 様 |
| ・坂東市 風見 純子 様 | ・阿見町 加藤 裕子 様 |
| ・つくば市 加藤萬嬉子 様 | ・横須賀市 川畑 三郎 様 |
| ・柏市 木村佐知子 様 | ・笠間市 木村 秀樹 様 |
| ・常総市 小磯 節子 様 | ・筑西市 鯉渕とし子 様 |
| ・横浜市 小森 綾子 様 | ・守谷市 笹島 京美 様 |
| ・さいたま市 杉田登志子 様 | ・ひたちなか市 鈴木 英子 様 |
| ・足立区 蓼原満喜子 様 | ・つくばみらい市 直井 洋明 様 |
| ・城里町 永山 雅博 様 | ・取手市 長山 明映 様 |
| ・土浦市 野村美知子 様 | ・神栖市 馬場裕美子 様 |
| ・城里町 檜山由紀子 様 | ・常総市 藤川由美子 様 |
| ・ひたちなか市 松岡 治夫 様 | ・つくばみらい市 宮島 理恵 様 |
| ・つくばみらい市 宮嶋 祐太 様 | ・水戸市 谷津 玲子 様 |
| ・阿見町 山川百合子 様 | ・牛久市 依田かよ子 様 |
| ・筑西市 広瀬きよ子 様 | |

上記の 35 名の皆様に、「賛助会員」として私たちの活動を
支えていただいております。皆様の温かいご協力に、感謝
申し上げます。



◇このマークを御存じですか？

「ヘルプマーク」

援助や配慮が必要な方のためのマ
ークです。外見からは分からなくても
援助や配慮が必要な方がいます。そう
した方々が、周囲の方に配慮を必要と
していることを知らせることで、援助
が得やすくなるよう、「ヘルプマーク」
を作成して普及に取り組んでいます。

白だよ

赤だよ



お知らせ



日本高次脳機能障害友の会第19回全国大会 (in かがわ)

日時・場所

交流会：令和元年 10月18日(金) 18:00~20:00 高松国際ホテル
大会：令和元年 10月19日(土) 13:00~16:00 レクザムホール

大会テーマ

『～それぞれが自分らしく心豊かに生活しあえる社会をめざして～』

※申し込みご希望の方は、事務局までご連絡ください。

茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座のご案内

日時 令和元年 11月18日・19日 (9:30~16:00)

場所 精神保健福祉センター

- 内容
- 18日
- ・高次脳機能障害とはどのような障害か。
 - ・コラボレーションワーク
 - ・高次脳機能障害への対応及び訓練方法
 - ・高次脳機能障害支援センターの活動を知る
- 19日
- ・高次脳機能障害支援にかかわる制度
 - ・高次脳機能障害福祉サービスの実際を知る
 - ・高次脳機能障害者の就労支援について
 - ・家族支援
 - ・当事者の体験談に学ぶ

編集後記

9月15日は名優「樹木希林さん」の1周年忌でした。
テレビでは、特集番組や出演作を数多く放映していました。
彼女の生き方、考え方にはとても心惹かれます。「おごらず、
人と比べず、面白がって、平気に生きればいい。」胸に付き
刺さります。そんな風に生きていきたいけど難しい。。。。。

